

高等学校情報科担当教員の配置状況及び今後の取組について

高校教育課

11月8日に文部科学省から「高等学校情報科担当教員の配置状況及び指導体制の充実に向けて」が公表された。本県において教科「情報」の免許外教科担任を、これまで指導力向上を図りながら減少させてきたところだが、本年度76名と多い状況である。新学習指導要領の実施によるプログラミング等授業内容の高度化に加え、共通テストの教科「情報」の導入も踏まえ、今後もAICTE事業（EdTech教材を活用した学びのDX事業）の活用、教員の専門性を高めるための指導力向上研修（県独自研修、情報処理学会教員研修等）を継続しながら、ペースを速めて免許外教科担任減少にむけた改善に取り組んでいく。

1 現状

(1) 情報科担当教員の直近3年間の状況

	普通免許保有	免許外教科担任	合計	免許外教科担任の割合
令和2年度	69	148	217	68.2%
令和3年度	64	107	171	62.6%
令和4年度	68	76	144	52.8%

(2) 免許外教科担任が多い理由

- 学校規模が小さい学校（中山間地校、定時制）は、情報教員の配置が難しいこと。
- 現在の情報免許保有者は、他教科で採用となった教員が多く、主として採用教科を担当しているため情報を担当できない場合が多い（情報科担当教員以外の免許保有者は104名）。
- 採用者を全県的にバランスよく配置するには時間を要すること。

2 今後の改善計画

(1) 目標

- 免許外教科担任を令和5年度当初29名、令和6年度当初までにゼロとする方向で検討。

(2) 主な方策

- 令和4年度採用から情報免許のみの保有者も出願可と緩和したこと、採用数を複数名にしたこと等、引き続き改善策を講じ積極的な採用に努める。
- 授業を担当していない情報免許保有者を情報科担当教員として配置。
- 情報以外の普通免許状を保有している教員のうち、情報に関する優れた知識経験又は技能を有する者に対する特別免許状による対応。
- 学校規模が小さい学校については、オンライン授業を活用した授業方法の検討。
- 全日制、定時制、通信制の兼務による免許保有者を情報科担当教員として配置。
- 情報免許保有者の再任用教員について情報科担当教員として配置。
- 現在情報を指導しており、情報以外の普通免許状を保有している教員に対して情報の免許状の取得を奨励（取得には複数年必要）。
- 文部科学省及びNHK高校講座等の教材・動画配信の利用、オンライン授業の活用。
- 引き続き、プログラミング、データベース等の専門性を高める研修の充実。